

## 2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	拡張排水システム小委員会		主 査 名：坂上 恭助 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：近本 智行
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>「拡張排水システム」は、従来型の排水システムを拡張・補完できるシステムとして期待されるが、その技術的・構造的な体系は従来型と大きく異なることから基準などを共通し難い。また認知と普及に課題がある。そこで、学会として体系や基準を示すことによって、その普及拡大を支援していくこと。</p> <p>初年度：出版原稿執筆・適用事例収集 2 年度：出版作業執筆・適用事例整理 3 年度：出版作業支援・AIJES改定作業 4 年度：AIJES 改定作業・適用事例のまとめ</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：坂上恭助 (明治大学) 幹事：古賀誉章 (宇都宮大学)、佐々木敏 (ブリヂストン) 委員：飯塚宏 (日建コンストラクション・マネジメント)、白井政夫 (ジェス)、加藤健一郎 (斎久工業)、久保勝之 (長谷工コーポレーション)、小寺定典 (加倉工業)、榎木剛 (丸一)、高津靖夫 (芝工業)、谷信幸 (アルモ設計)、前川一郎 (戸田建設)、真山淳哉 (タキロンシーアイ)、山本慈朗 (ジェス)、大道康之 (積水化学工業)		
設置 WG (WG 名：目的)	拡張排水システム普及 WG：「拡張排水システム」普及拡大を図るため、設計・施工に関する情報収集の実施		
2022 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s36/">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s36/</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	(名称)『建築を変える 拡張排水システムの設計法』 参加者数 71 名 (資料名) シンポジウム『建築を変える 拡張排水システムの設計法』資料
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. シンポジウムにより、拡張排水システムの普及拡大を図った (100%) 2. AIJES-B0003 の性能規定化について議論・改定案の作成を行った (80%)
委員会活動の問題点・課題	無

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・○最終年度評価)

<b>総合評価 (4 段階評価)</b>	<b>A</b>																																							
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<p>本小委員会は「拡張排水システム」について、学会として体系や基準を示すなどにより、その普及拡大を支援することは目的として、以下の活動をした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>これまでの AIJES-B0003 「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」において不足していた設計法の詳細や適用事例についてまとめた「日本建築学会編；建築を変える拡張排水システムの設計法，彰国社」を 2022 年 6 月に刊行した。これにより，これから拡張排水システムを計画・設計したいと考える建築主・設計者の検討や採用が促されることが期待される。</li> <li>2022 年 10 月にシンポジウム『建築を変える 拡張排水システムの設計法』を開催した。プログラムを下記に示す。コロナ禍の影響が残る時期での開催であったが、対面及びwebで計 71 名の参加があった。講演より拡張排水システムの設計アドバンテージや各システムの事例紹介を解説、及び質疑回答・討論を通して、拡張排水システムの理解を深めることができたと考える。</li> </ol> <hr/> <p style="text-align: center;">&lt;プログラム&gt; <span style="float: right;">司会：前川一郎（戸田建設）・小島邦晴（共立エステート）</span></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 開会の辞・趣旨説明</td> <td style="width: 30%;">坂上恭助（明治大学）</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">13:00～13:10</td> </tr> <tr> <td>2. 拡張排水システムの設計アドバンテージ</td> <td>古賀善章（宇都宮大学）</td> <td style="text-align: right;">13:10～13:30</td> </tr> <tr> <td>3. 各システムの事例紹介</td> <td></td> <td style="text-align: right;">13:30～15:50</td> </tr> <tr> <td>  小型圧送排水システム</td> <td>白井政夫（元スマートポンプジャパン），加藤健一郎（斎久工業）， 奥野祐一（TOTO），飯塚宏（日建設計コンストラクション・マネジメント）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  真空排水システム</td> <td>山本慈朗（ジェス），古賀善章（前出）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  （休憩）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  サイホン雨水排水システム</td> <td>光永威彦（明治大学），江口尚志（積水化学工業），真山淳哉（タキロンシーアイ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  サイホン雑排水システム</td> <td>佐々木敏（ブリヂストン），小寺定典（加倉工業）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  自封トラップ</td> <td>榎木剛（丸一）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 拡張排水システムの規準類における扱い</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  （休憩）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 質疑回答・討論</td> <td>コーディネータ 坂上恭助（前出）・岡内繁和（明治大学）</td> <td style="text-align: right;">16:20～16:55</td> </tr> <tr> <td>6. 閉会の辞</td> <td></td> <td style="text-align: right;">16:55～17:00</td> </tr> </table> <hr/> <p>3. AIJES-B0003 の性能規定化にむけた意見交換・改定案の作成を実施した。</p>	1. 開会の辞・趣旨説明	坂上恭助（明治大学）	13:00～13:10	2. 拡張排水システムの設計アドバンテージ	古賀善章（宇都宮大学）	13:10～13:30	3. 各システムの事例紹介		13:30～15:50	小型圧送排水システム	白井政夫（元スマートポンプジャパン），加藤健一郎（斎久工業）， 奥野祐一（TOTO），飯塚宏（日建設計コンストラクション・マネジメント）		真空排水システム	山本慈朗（ジェス），古賀善章（前出）		（休憩）			サイホン雨水排水システム	光永威彦（明治大学），江口尚志（積水化学工業），真山淳哉（タキロンシーアイ）		サイホン雑排水システム	佐々木敏（ブリヂストン），小寺定典（加倉工業）		自封トラップ	榎木剛（丸一）		4. 拡張排水システムの規準類における扱い			（休憩）			5. 質疑回答・討論	コーディネータ 坂上恭助（前出）・岡内繁和（明治大学）	16:20～16:55	6. 閉会の辞		16:55～17:00
1. 開会の辞・趣旨説明	坂上恭助（明治大学）	13:00～13:10																																						
2. 拡張排水システムの設計アドバンテージ	古賀善章（宇都宮大学）	13:10～13:30																																						
3. 各システムの事例紹介		13:30～15:50																																						
小型圧送排水システム	白井政夫（元スマートポンプジャパン），加藤健一郎（斎久工業）， 奥野祐一（TOTO），飯塚宏（日建設計コンストラクション・マネジメント）																																							
真空排水システム	山本慈朗（ジェス），古賀善章（前出）																																							
（休憩）																																								
サイホン雨水排水システム	光永威彦（明治大学），江口尚志（積水化学工業），真山淳哉（タキロンシーアイ）																																							
サイホン雑排水システム	佐々木敏（ブリヂストン），小寺定典（加倉工業）																																							
自封トラップ	榎木剛（丸一）																																							
4. 拡張排水システムの規準類における扱い																																								
（休憩）																																								
5. 質疑回答・討論	コーディネータ 坂上恭助（前出）・岡内繁和（明治大学）	16:20～16:55																																						
6. 閉会の辞		16:55～17:00																																						

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。